

心の病もつ親の子支援を

精神障害の親と生活する子どもの支援を
考えるシンポジウムが18日、中村区名駅の
県産業労働センターであった。

(日下部弘太)

「偏見で病気を知らされない」

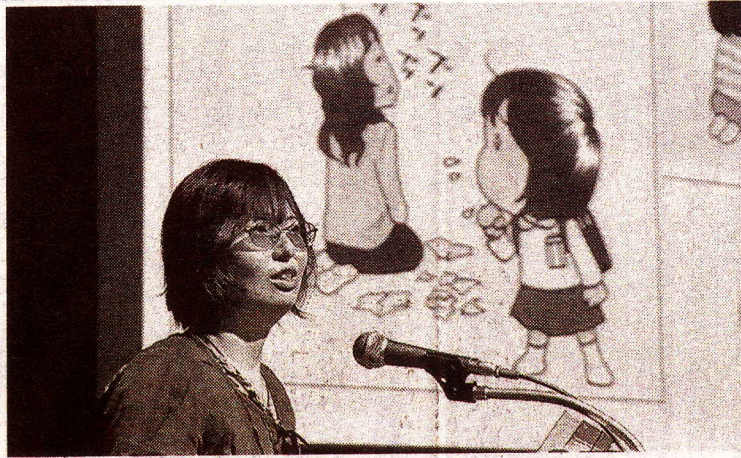
中村でシンポ

漫画家中村ユキさんら招く

日本精神保健看護学会
が総会に合わせて開い
た。母親が統合失調症
で、「わが家の母はビヨ
ーキです」を描いた漫画
家中村ユキさん、同じく
母が統合失調症だった児
童精神科医夏苺郁子さん
らがパネリストを務め
た。

中村さんは幻聴や妄想
といった母の症状を「靈
感が強いため」と信じ込
み、治療につながるまで
に長く苦しんだ。その経
験から「小学校高学年く
らいになれば病気を理解
できる。早く分かれば、
母をあんなに憎まずに済
んだのに」と話した。

夏苺さんも同調して
「精神科医にも、親の病
気子どもに説明するとい
う発想がない」と指摘
した。三重大医学部看護
学科の土田幸子助教は
「子どもが病気を知らさ
れないのは偏見も影響し
ている」と話し、学校教
育で精神疾患を教える必
要性を強調。精神障害者
が集まって暮らす北海道
浦河町の「べてるの家」
の運営者を父に持つ向谷
地宣明さんは「べてるで
は、親の苦勞も子の苦勞
も他人に開かれており、
子どもも自然に障害を理
解できている」と話した。



統合失調症を発症した母親との生活
を振り返る漫画家中村ユキさん
中村区名駅の県産業労働センターで